イ　移植水稲本田　雑草イネ除草剤

|  |
| --- |
|  |

農薬等普及展示(長野県 2019)

（１行空け）

整理番号（全角） 課　題　名（左寄せ）

（１行空け）

農業改良普及センター

(試験場協力試験の場合は試験場名も並記)

（１行空け）

１ 目 的　（設計書の目的を記入する）

２ 設置場所

３ 担当者名　　　農業改良普及センター　　　　　　農家

４ 展示ほ設置方法

 (1) ほ場条件

 ① 標高　　　② 土質(灰色低地、褐色森林、黒ボク)・土性(砂土、砂壌土、壌土、埴壌土、埴土)

 　 ③ 耕土深　　　cm　　　　④ 有機物施用有無 　　　　　　⑤ 腐植の多少

 　 ⑥ 減水深　　　cm／日　　⑦ 平年の雑草の発生状況 (主要雑草名と多少)

 (2) 耕種概要

 ① 品種　　　「　　　」

 ② 育苗 ア　様式(稚苗、中苗、成苗)　 イ　播種期

 ③ 耕起、代かき　 ア　耕起日 　イ　　入水日　　　ウ　代かき日

 ④ 田植日　　　　　　　　　　　田植時の苗の草丈　　　　cm

(3) 設置状況

 ① 面積、区制 　１区　　ａ、　　　連制（または無反復）

　　② 区割り見取図



③ 供試薬剤と処理時の状況

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 供試薬剤 | 散布 | 処理時の水深 | 雑草イネの発生状況 | 天候等 | 委託会社 |
| 時期 | 量(/10a) |
| (展)初期剤＋初中期剤＋中期剤 | 　　後　日（　/　）移植後　日（　/　）移植後　日（　/　） |  |  |  |  | 〇〇（株） |
| (対) 初期剤＋初中期剤＋中期剤 | 後　日（　/　）移植後　日（　/　）移植後　日（　/　） |  |  |  |  |  |
| (無)初期剤中期剤 | 後　日（　/　）移植後　日（　/　） |  |  |  |  |  |

注１ 時期：処理時期（暦日）を記入。例：代かき直後（○／○）

注２ 雑草イネの発生程度は程度（多、中、少、無）および葉数で示す。

注３ 展示区を同一圃場に設置できなかった場合は、各展示区の状況を記す。

注４ フロアブル剤、ジャンボ剤、自己拡散型粒剤の場合は処理時の藻類、表層剥離の発生状況についても記す。

④ 展示終了後の除草時期、方法　　 時期　 月　 日

　　　　　　　　　　　　　　　 　 　方法

５　展示成績

 (1)散布条件の調査

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 供試薬剤 | 散　　　布　　　方　　　法 | 風向 | 風力 |  |
|  散布方法　　 噴　頭 　　スロットル開度　シャッター開度 |
| (展) | 手散布　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 | ＮＥ | ０－１ |
| (対) |  |  |  |
| (無) |  |  |  |

 注１ 散布方法：粒剤は動散、散粒器、手まき、畦畔散布、乗用管理機、田植同時

　　　　　　　　フロアブル剤は畦畔散布、水口処理、ほ場内散布

　　　　　　　　ジャンボ剤は投げ込み等を簡潔に記入する。

風力：気象庁風力階級表(ビューフォート風力階級表:参考(3))による

(2)雑草イネ調査（　／ａ当たり）　（調査日：各剤処理前、最終処理後20～30日後、出穂期）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 供試薬剤 | 雑草イネ(　月　日)○○剤目処理直前 | 雑草イネ(月　日)○○剤目処理直前 | 雑草イネ(月　日) | 合計 |
| 本数 | 同左比率(%) | 本数 | 同左比率(%) | 本数 | 同左比率(%) | 本数 | 同左比率(%) |
| (展)(初期剤)+初中期剤+(中期剤） |  |  |  |  |  |  |  |  |
| (対)(初期剤)+初中期剤+(中期剤) |  |  |  |  |  |  |  |  |
| (無)ｷｯｸﾊﾞｲ１キロ粒剤+ﾜｲﾄﾞｱﾀｯｸD1ｷﾛ粒剤 |  |  |  |  |  |  |  |  |

(3)稲の生育調査

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 供試薬剤 | 薬　　害 |  最高分げつ期 （月／日） | 出穂期 |  成 熟 期 （月／日） |
|
| 程度 | 症　状 | 草丈 | ㎡茎数 | 月／日 | 稈長 | 穂長 | ㎡穂数 |
| (展)初期剤＋初中期剤＋中期剤 | 無無無 | －－－ | 65 | 400 | 8/5 | 85 | 18.5 | 350 |  |
| (対)初期剤＋初中期剤＋中期剤 |  |  |  |  |  |  |  |  |
| (無)初期剤＋中期剤 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

　　　注１ 草丈・稈長・㎡穂数は整数で記載し、穂長は小数点以下1位まで記載する。

　　　　　 ㎡茎数・㎡穂数は、調査地点の畦幅・株間を測定して算出する。

　　　注２ 最高分げつ期調査が遅れている場合が多い。 従来の 「大暑調査」 は現在の作期では節間伸長を開始した時期になり、この時点の茎数は最高茎数より減少している。したがって、最高分げつ期は普通期栽培で田植後40～45日頃(６月下旬～７月上旬頃)、晩植栽培にあっても遅くも出穂前25日までには調査を終了する。

６　考察 (除草剤又は体系ごとに対照薬剤， 無処理に比較して)

　(1) 除草効果(全般的効果，及び対象雑草への効果)

　　　定型文「展示薬剤○○は、対照薬剤△△と同等の効果が認められた。」

その他のコメントは、定型文のあとに記載。

(2) 薬害の状況(生育状況，薬害の有無，様相，程度)

　(3) その他(散布の難易，普及上の問題点，気付いた点、農家の感想等)

７　評価

　下記により該当するものに○印をする。

　Ｂ、Ｃと評価した場合は、「６　考察」にその理由を記入する。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 　　　　　　評価展示薬剤 | 効　果 | 薬　害 | 　　総合評価　 |
| Ａ | Ｂ | Ｃ | Ｄ | Ａ | Ｂ | Ｃ | Ａ | Ｂ | Ｃ |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

【効果】

　　Ａ：無処理区対比10%未満、Ｂ：同10%以上20%未満、Ｃ20%以上、

　　Ｄ：無処理区に雑草の発生が無かったため効果を評価できなかった

【薬害】

Ａ：薬害無～微　Ｂ：薬害少～中　Ｃ：薬害甚

【総合評価】

　　　Ａ：実用性有り　　Ｂ：継続検討　Ｃ：実用性なし